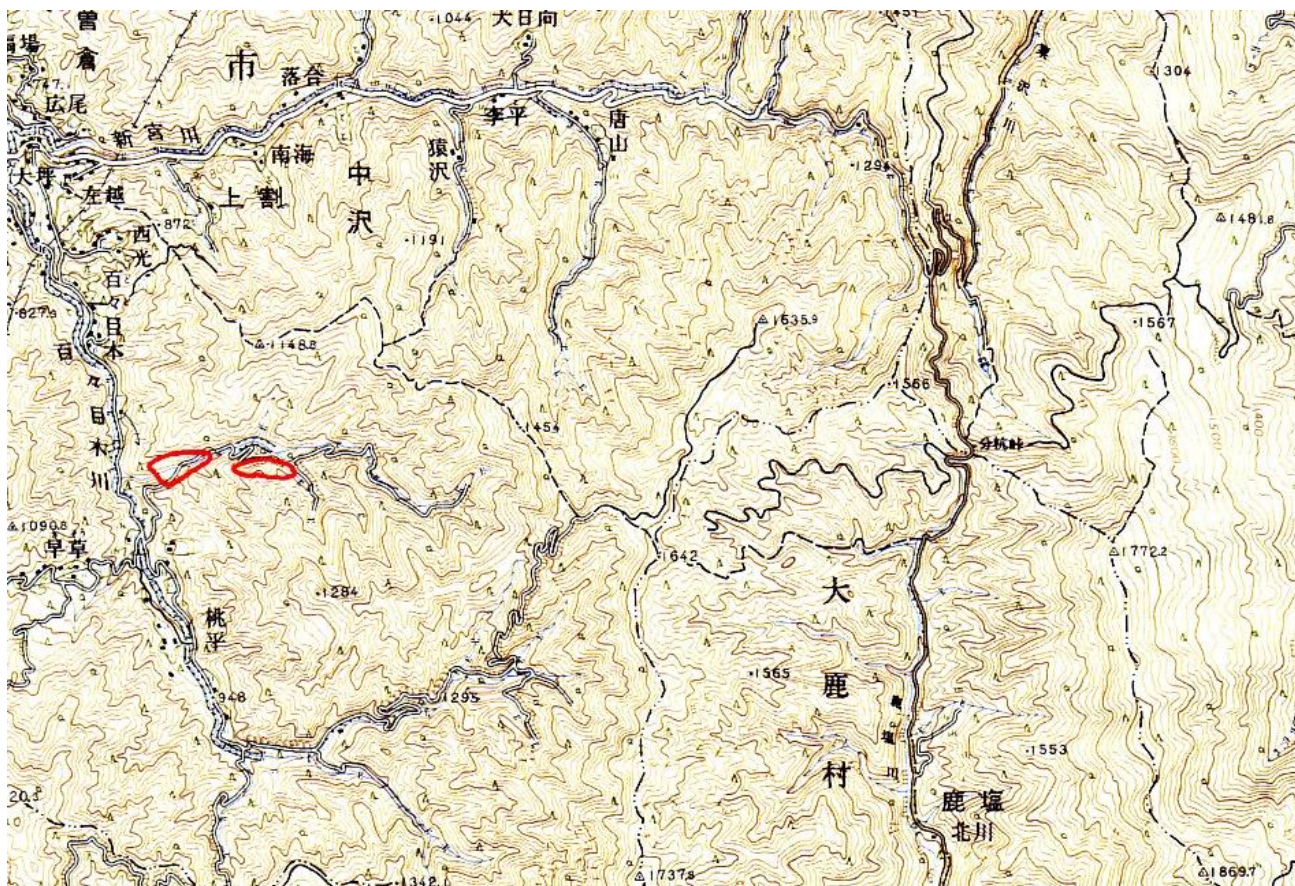


駒ヶ根県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(市野瀬)を使用したものである。

<沿革>

駒ヶ根県有林は、駒ヶ根市の東、中沢地区新沢の標高830mから960mに位置しています。昭和36年の豪雨災害による集団移住事業を契機に昭和39年3月31日に創設された小規模な県有林です。昭和46年から平成13年まで、西駒郷の活動で利用することを目的に、社会部と林務部とで覚書をかわし、部分林として活用を図りました。しかし、造林木の大径化に加え、砂防施設の建設などにより環境が変化してきたので部分林契約（覚書）を解除し現在に至ります。

<現況・特徴>

カラマツが主体で小規模な県有林です。道路に接しているため搬出に適していますが、私有林と多く接しており、境界の確認が課題となっています。



駒ヶ根県有林全景



林内の様子

<森林整備の方向>

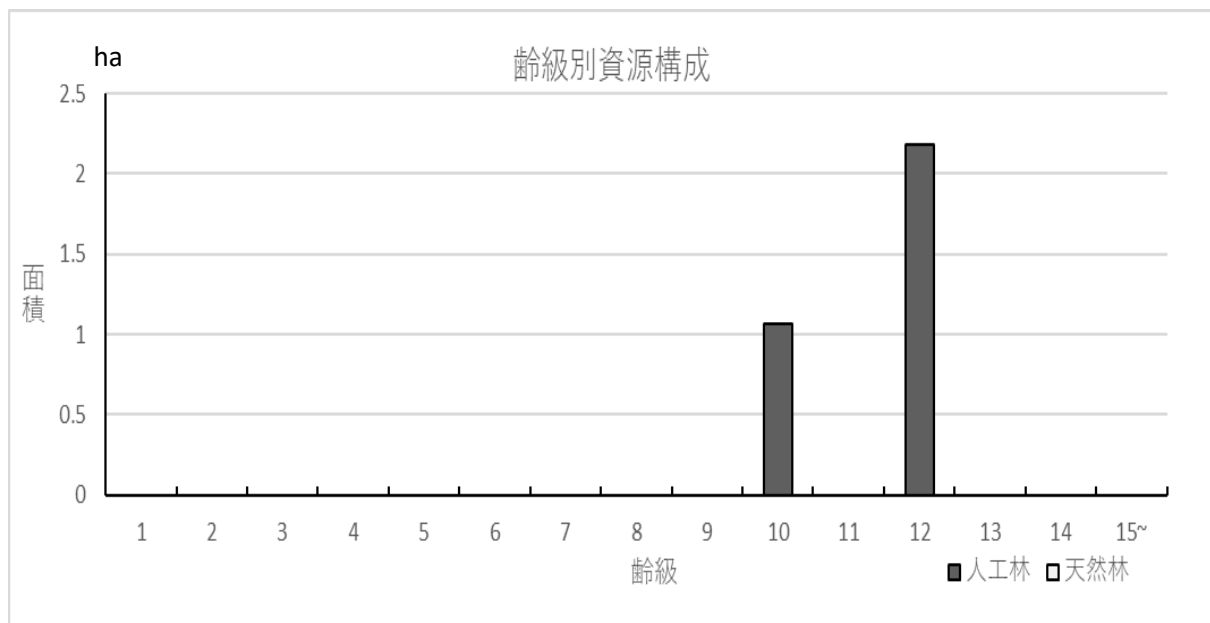
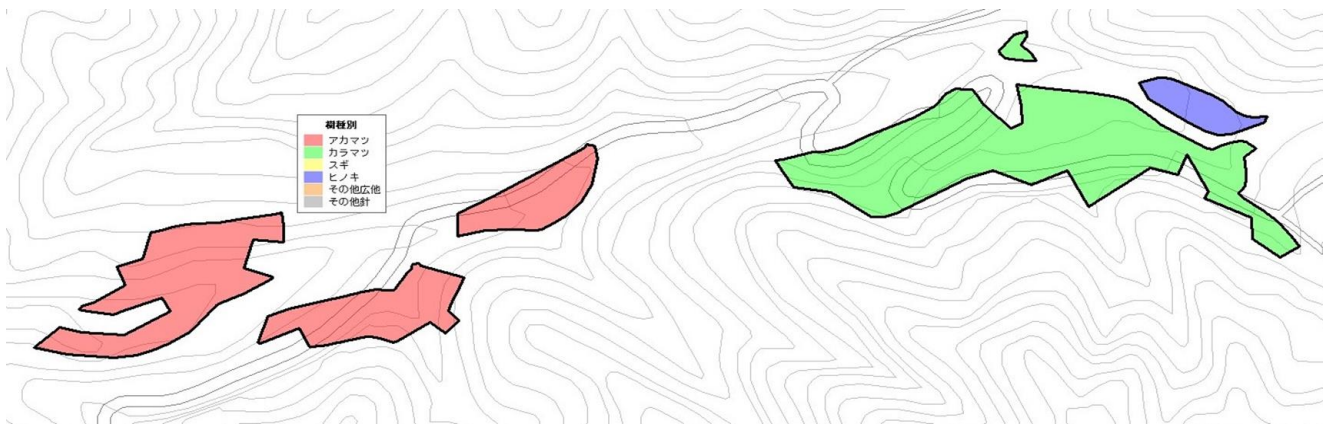
砂防指定地となっている区域については、複層型施業により林地保全に努めます。

砂防指定地ではない区域では、効率的木材生産型施業により主伐・再造林を実施します。

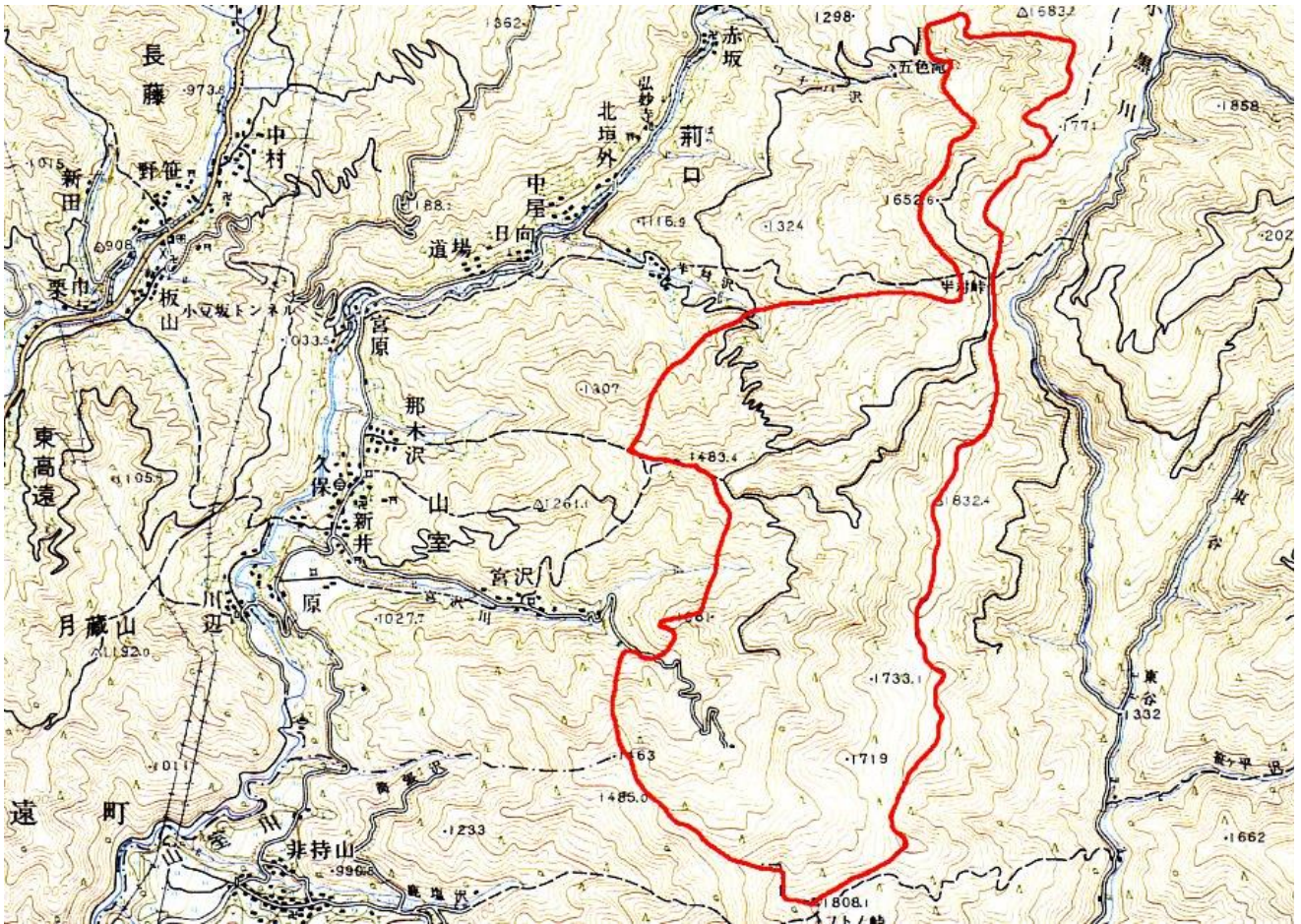
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
3.25		0.67	0.44	2.14			
100%		21%	14%	66%			



高遠県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(高遠、市野瀬)を使用したものである。

<沿革>

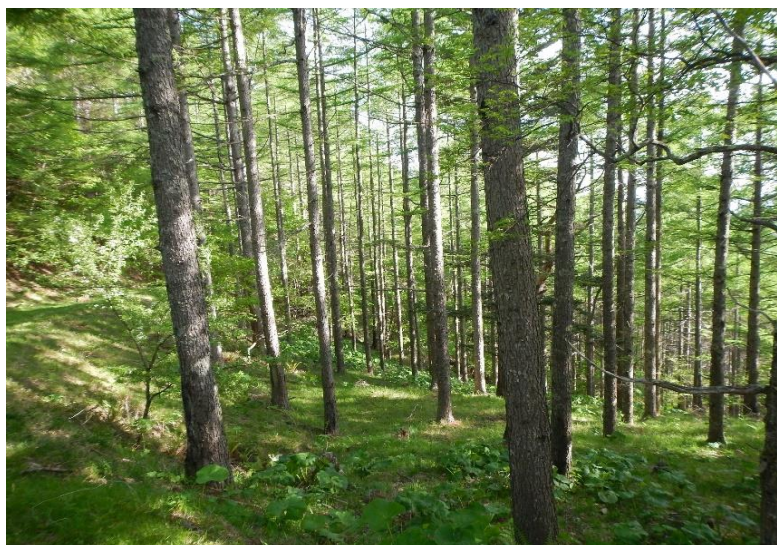
高遠県有林は伊那市（旧高遠町）の東、三峰川支流山室川左岸の標高1,130mから1,810mに位置しています。

昭和32年7月8日に町有林を購入して創設された新しい県有林ですが、信州大学に近いこともあって古くから様々な先進的施業が実施されてきました。

<現況・特徴>

大半がカラマツの造林地であり、近年、列状による搬出間伐事業が積極的に実施されています。

大きな特徴は林内道路密度の高さであり、28m/haは県有林平均値の2倍の密度ですが、近年の気象災害により被災した箇所が多く、作業道の補修が課題となっています。



林内の様子

<森林整備の方向>

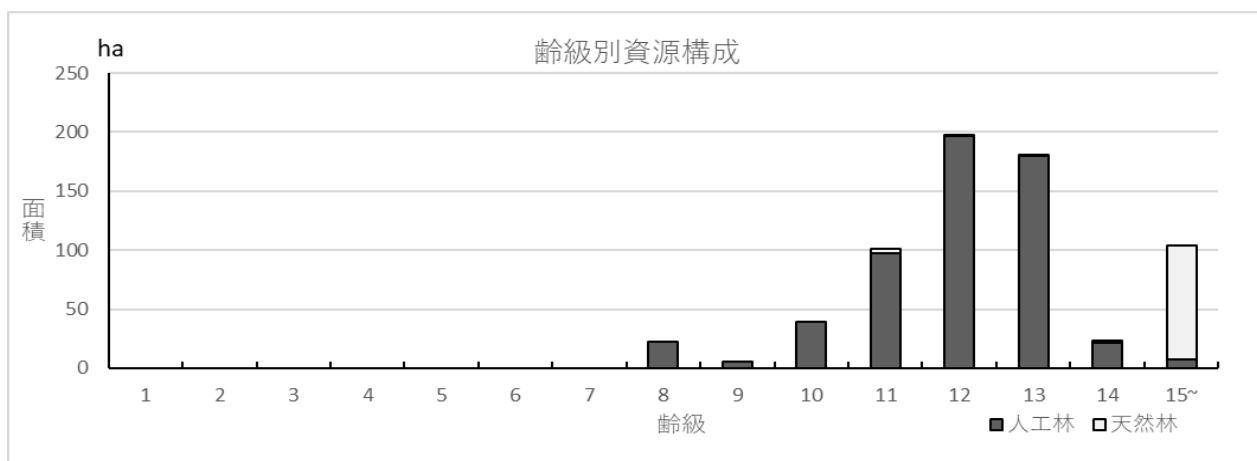
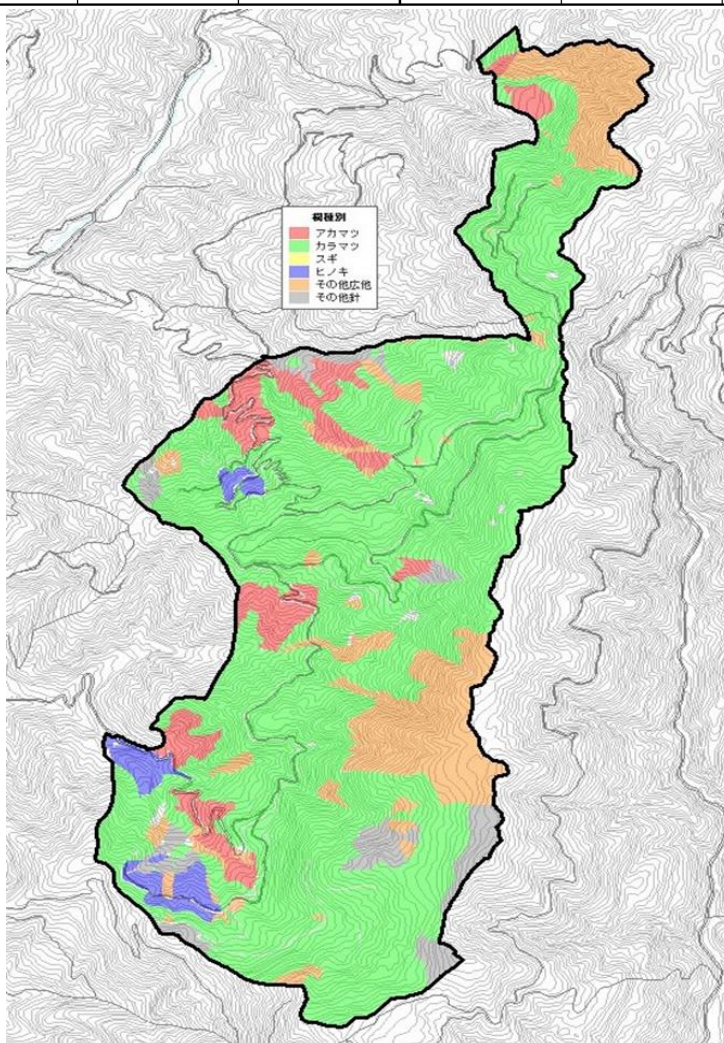
カラマツを中心とした針葉樹の資源が充実しているため、林道や作業道の修繕をしっかりと行い、路網沿線において小面積分散型もしくは効率的木材生産型施業を進め、主伐・再造林を実施します。

路網から離れ、傾斜が急な林分においては奥地林施業により針広混交林化を図り、公益的機能の増進に努めます。

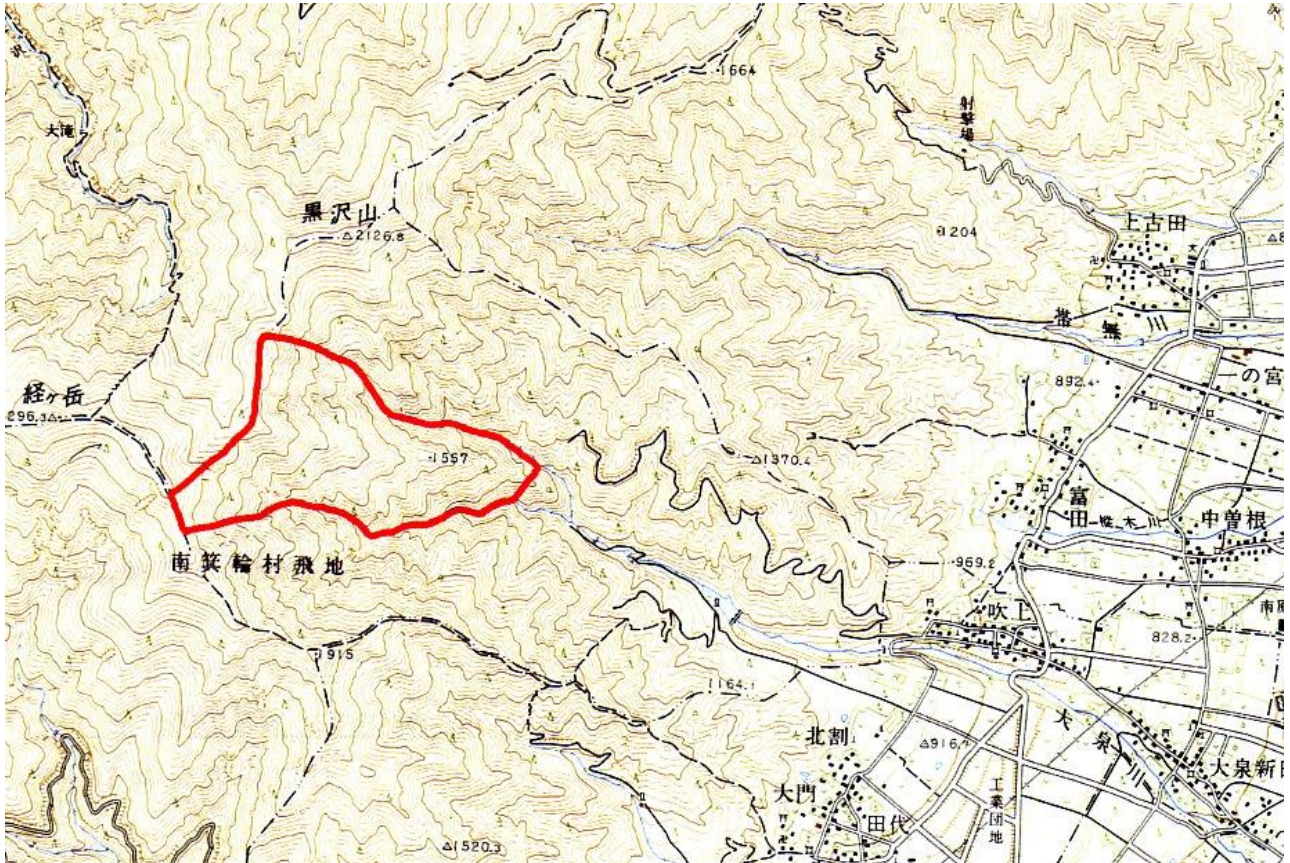
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
694		53.4	26.32	475.47	14.55	3.36	120.9
100%		8%	4%	69%	2%	0%	17%



南箕輪県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(伊那)を使用したものである。

<沿革>

南箕輪県有林は、南箕輪村の西方、慈覚大師が経文を納めた山として知られる経ヶ岳の東斜面に広がる標高1,210mから2,230mに位置しています。

昭和36年3月29日に村有林を購入して創設された県有林で、大泉川の最上流部にあり、天竜川の右岸の河岸段丘を潤す水源地となっています。

<現況・特徴>

ほとんどがカラマツの植栽地で保安林に指定されています。ブナの大木もあり、中には幹が空洞となっており、顔を出せるものもあります。

当県有林には、長野県版レッドリストの準絶滅危惧種に指定されているササユリが自生しています。

また、管理歩道は経ヶ岳への登山道として利用されており、年1回、南箕輪村関係団体の主催でトレイルランニング大会が行われています。



林内の様子



南箕輪県有林に自生するササユリ

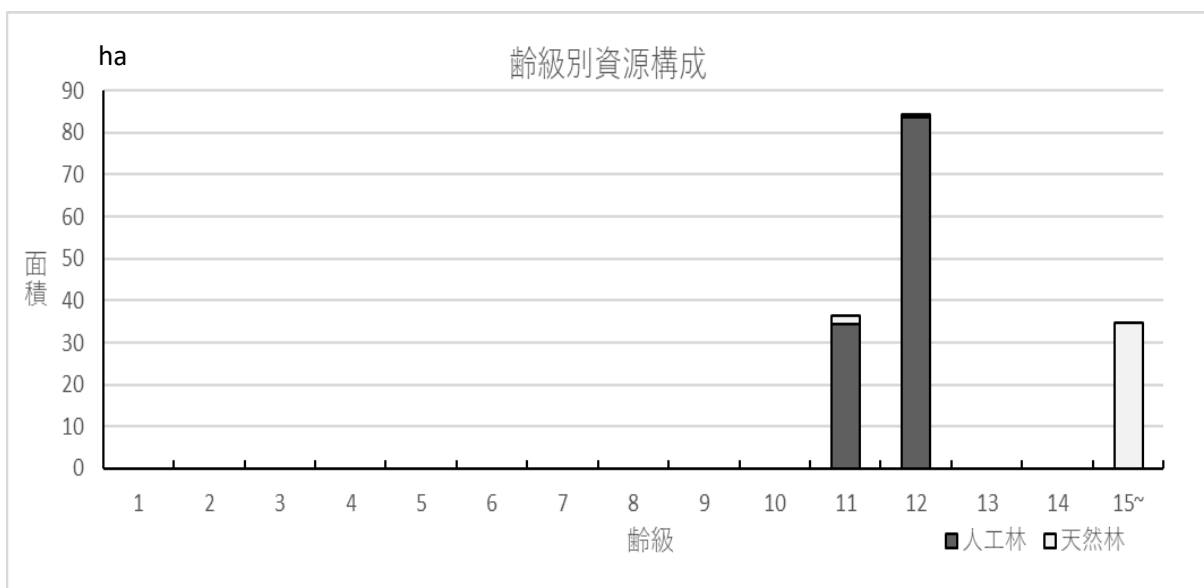
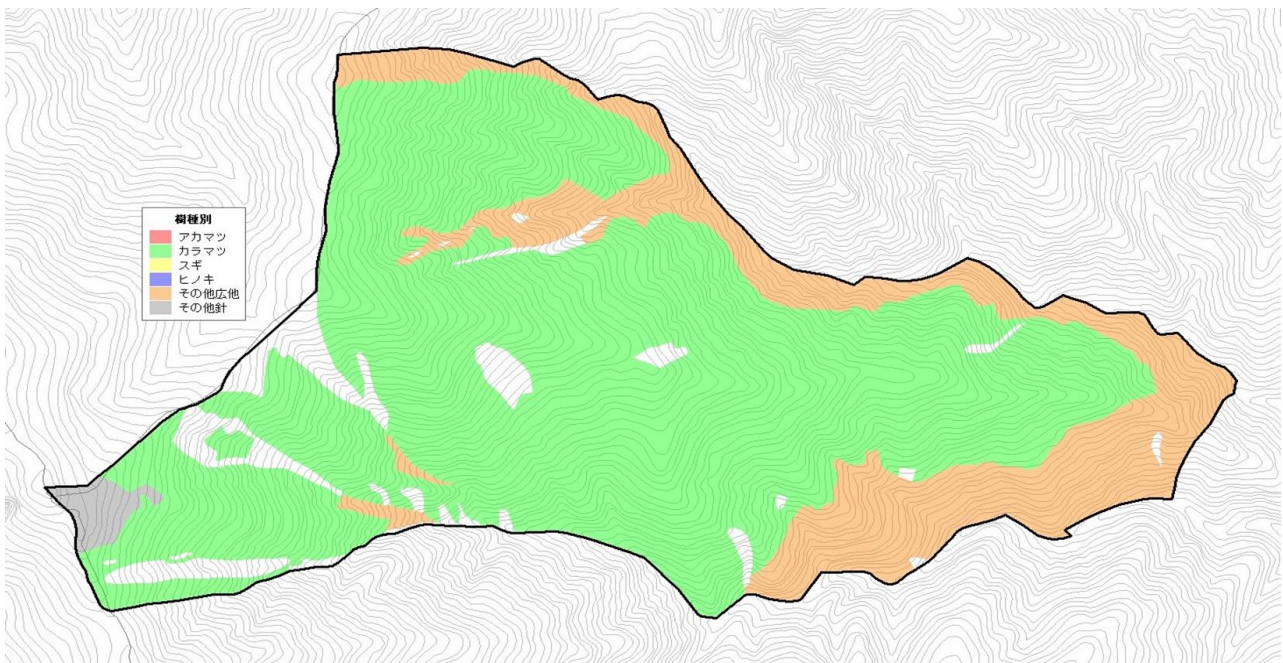
<森林整備の方向>

当県有林は路網がなく、地位はIV以下であることから、木材生産林としての活動は難しく、奥地林施業を行い、公益的機能の増進に努めます。

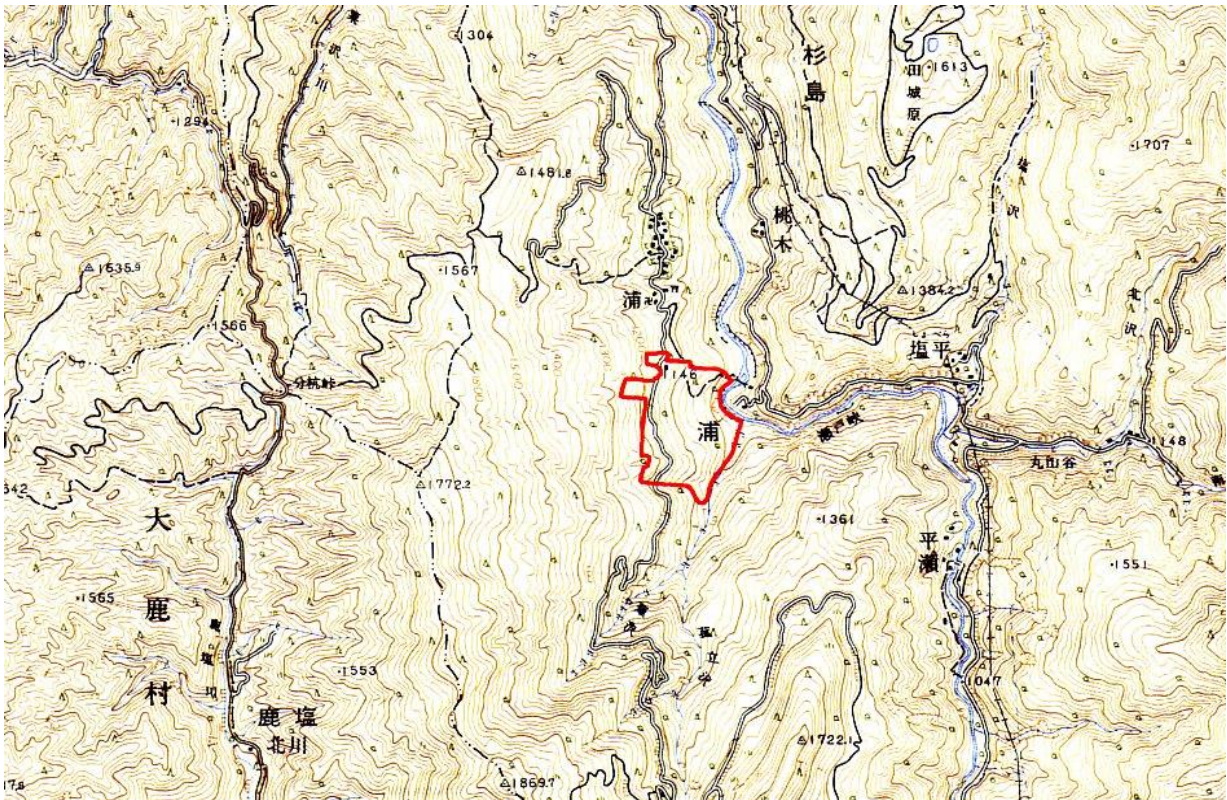
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
162.65				120.83			41.82
100%				74%			26%



長谷県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(市野瀬)を使用したものである。

<沿革>

長谷県有林は、伊那市（旧長谷村）の東方浦地区にあり、標高950mから1,260mの三峰川の上流に位置しています。

昭和36年の豪雨災害による集団移住事業を契機に昭和39年3月31日に個人有林を購入して創設された小規模な県有林です。

県有林入口付近の浦集落は、平家の落人の里として知られ、平重盛のものとされる墓があります。

<現況・特徴>

大半がカラマツ林で、村道浦線沿線に分布しています。広葉樹は沢筋に分布しています。

水が多い立地であり、心腐病が目立つ箇所があります。

平成30年に試行的に一部主伐を行いました。台風災害や獣害により、植栽木が枯損したため、獣害防護柵を設置した上で改植を行っています。



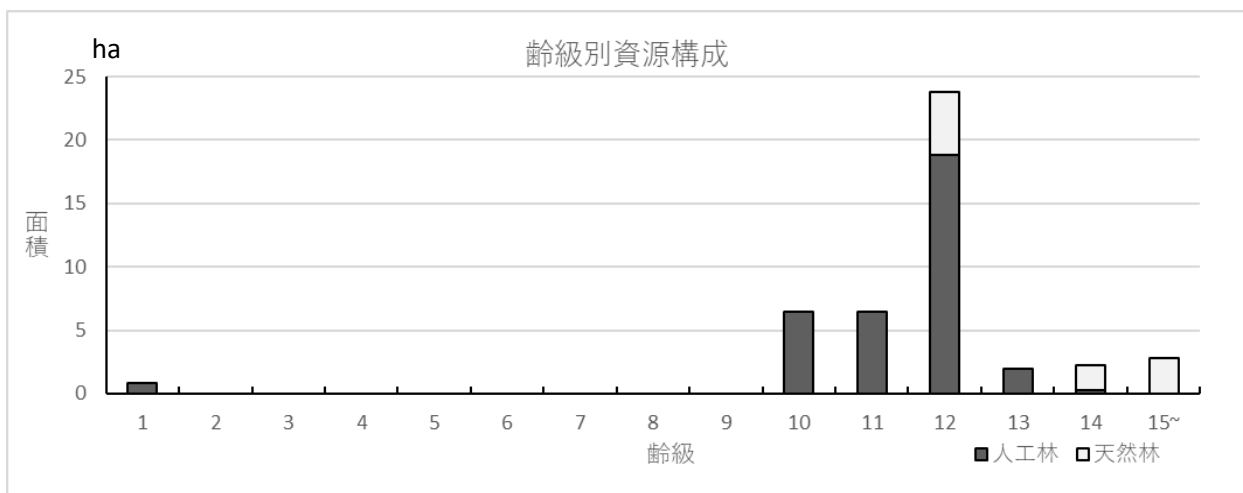
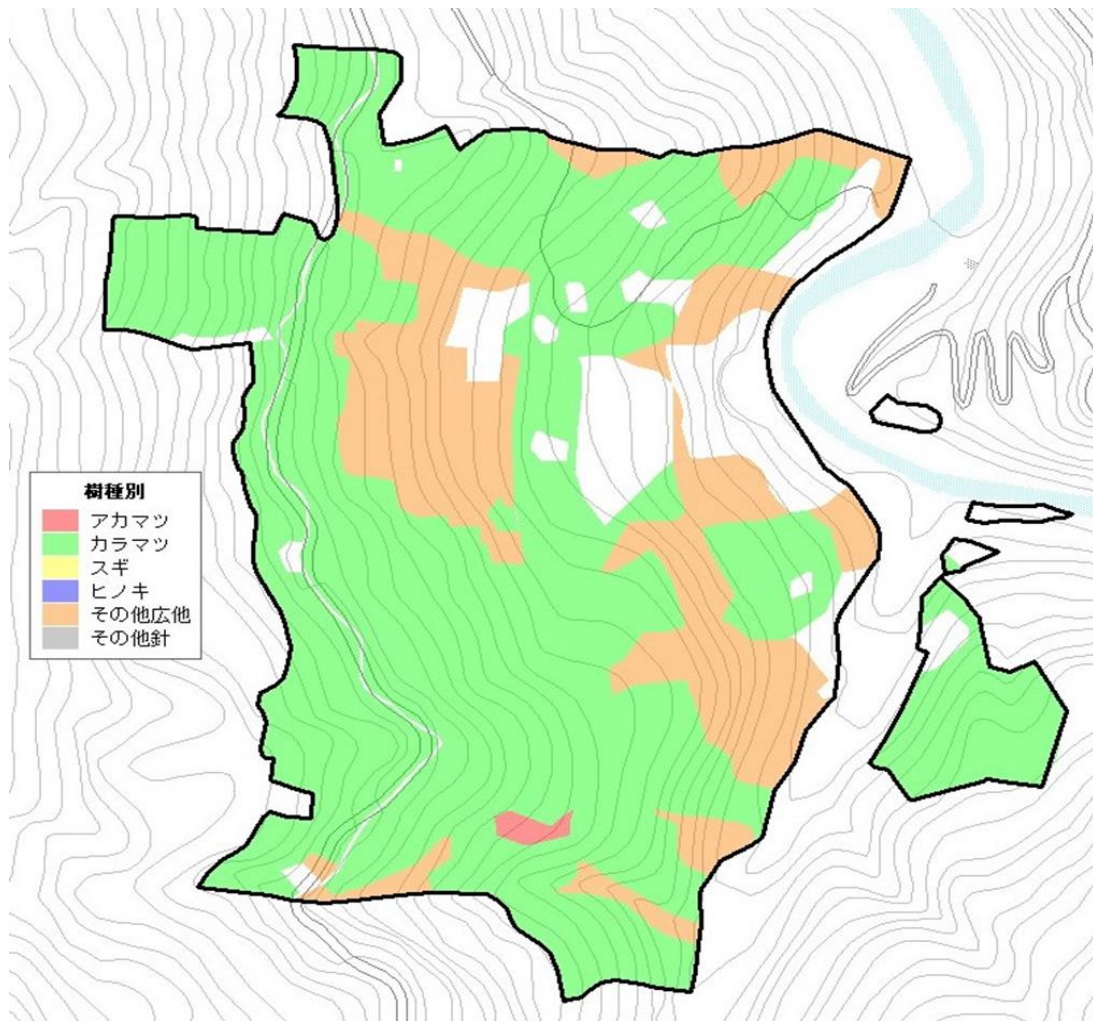
<森林整備の方向>

地形が急峻な林分においては、奥地林施業により針広混交林化を図り、林地保全に努めます。比較的傾斜が緩やかな林分においては、小面積分散型施業により主伐・再造林を行います。再造林樹種については、林業総合センターと相談しながら、適木を検討します。

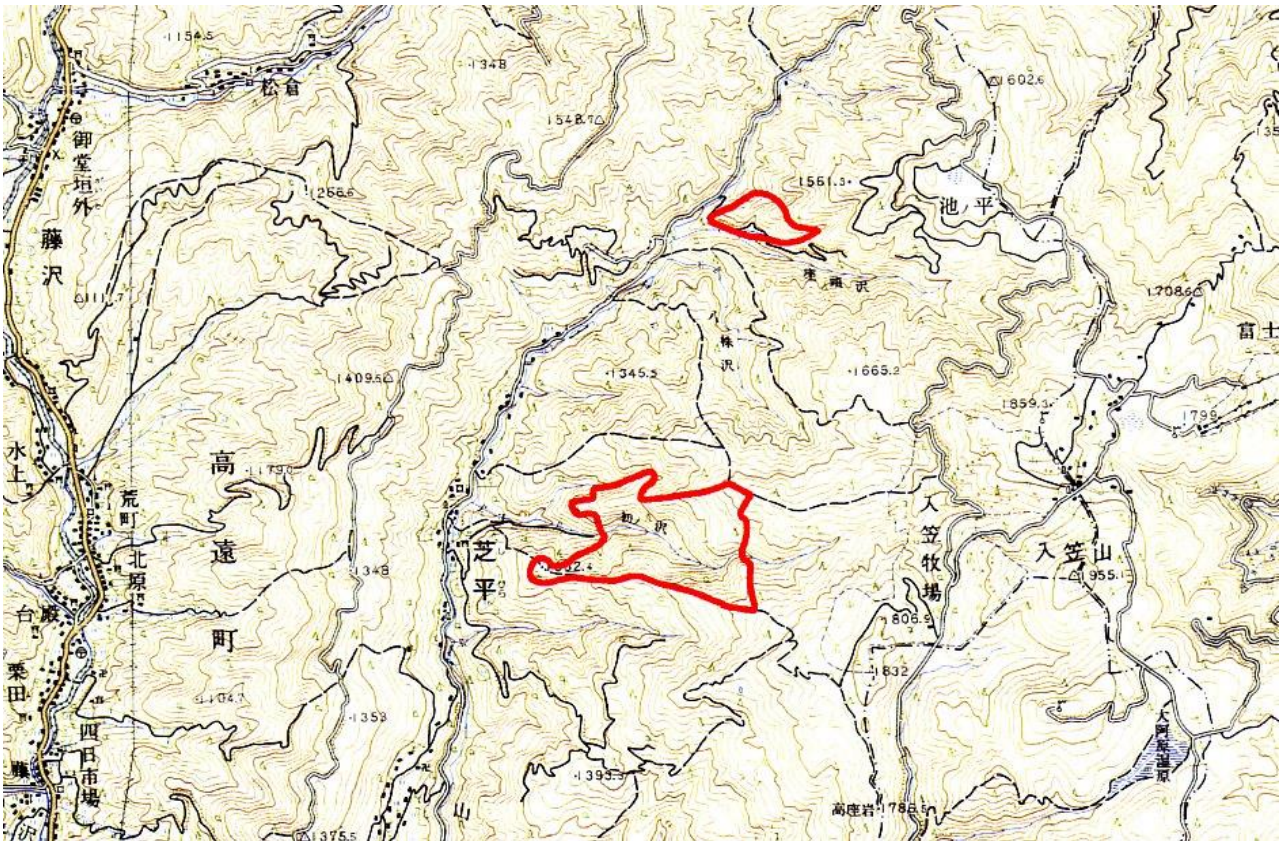
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
49.96		0.18		34.67		7.19	7.92
100%		0%		69%		14%	16%



高遠第二県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(高遠)を使用したものである。

<沿革>

高遠第二県有林は、伊那市(旧高遠町)の北東、三峰川支流 山室川の上流にあり、標高1,250mから1,650mに位置しています。初の沢周辺と座頭沢周辺の2箇所があり、昭和55年1月29日に創設された新しい県有林です。

それ以前は芝平地区の区有林として管理されていましたが、財政上の都合から県に売却され、今日に至っています。

<現況・特徴>

大半がカラマツ林となっています。

県有林内においてシカの利用圧が高いとみられることから、信州大学によってシカの踏圧と土壌流出と関係について研究が行われました。

初の沢周辺は、法華道の一部となっているため、法華道の説明版が複数あります。



県有林内のシカ道



法華道の説明版

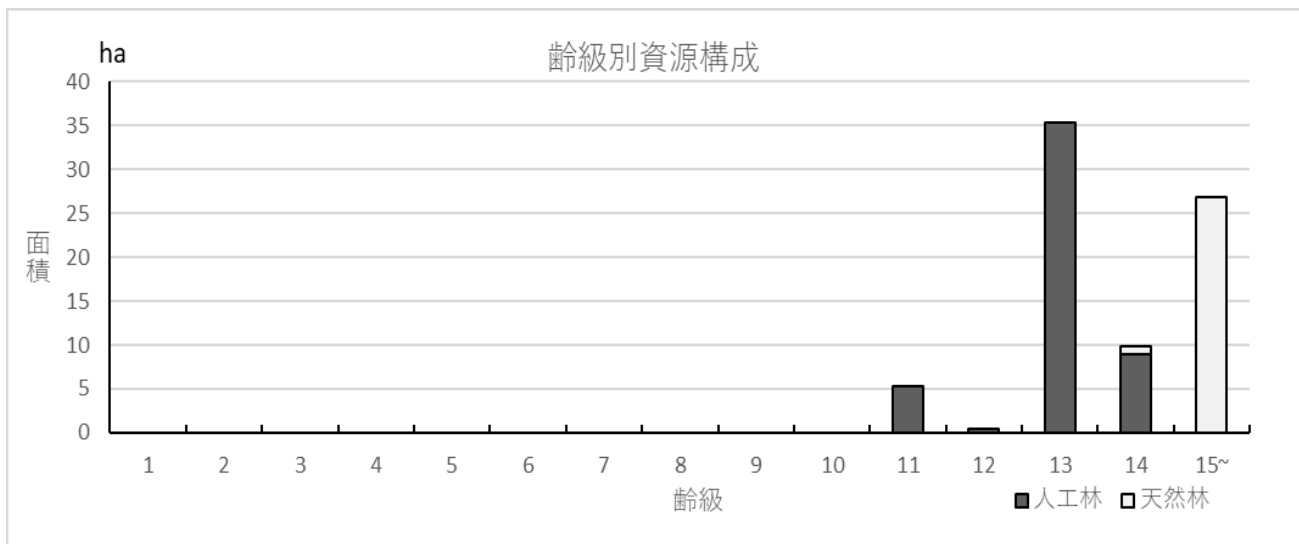
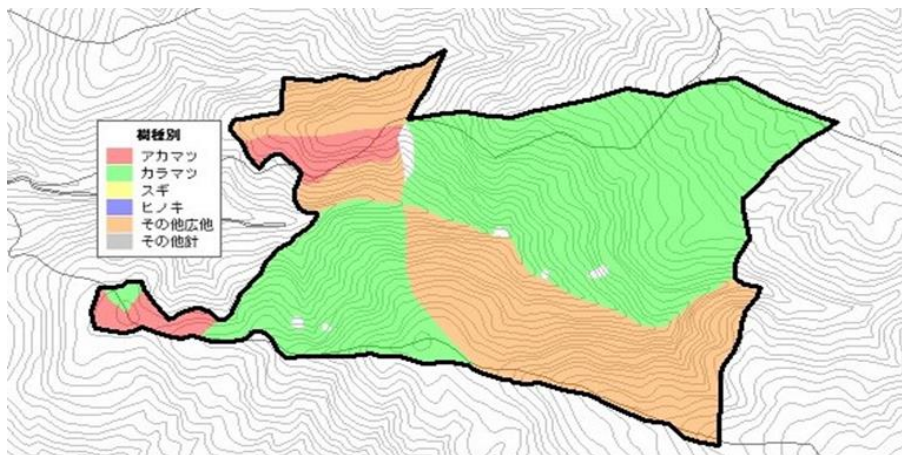
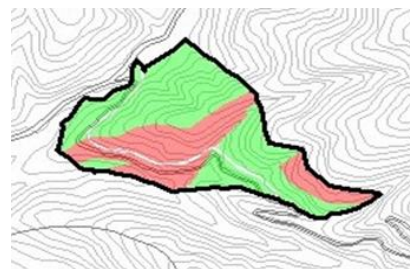
<森林整備の方向>

北側の座頭沢周辺の団地は、比較的地形が急峻ですが、林内に路網が開設されているので、帯状伐採等により小面積分散型施業を行います。南側の初の沢周辺の団地は傾斜が急であり、林内に路網を開設することが困難であるため、中・下層木の生長を観察しながら、上層のカラマツを抜き伐り、自然林化を図ります。

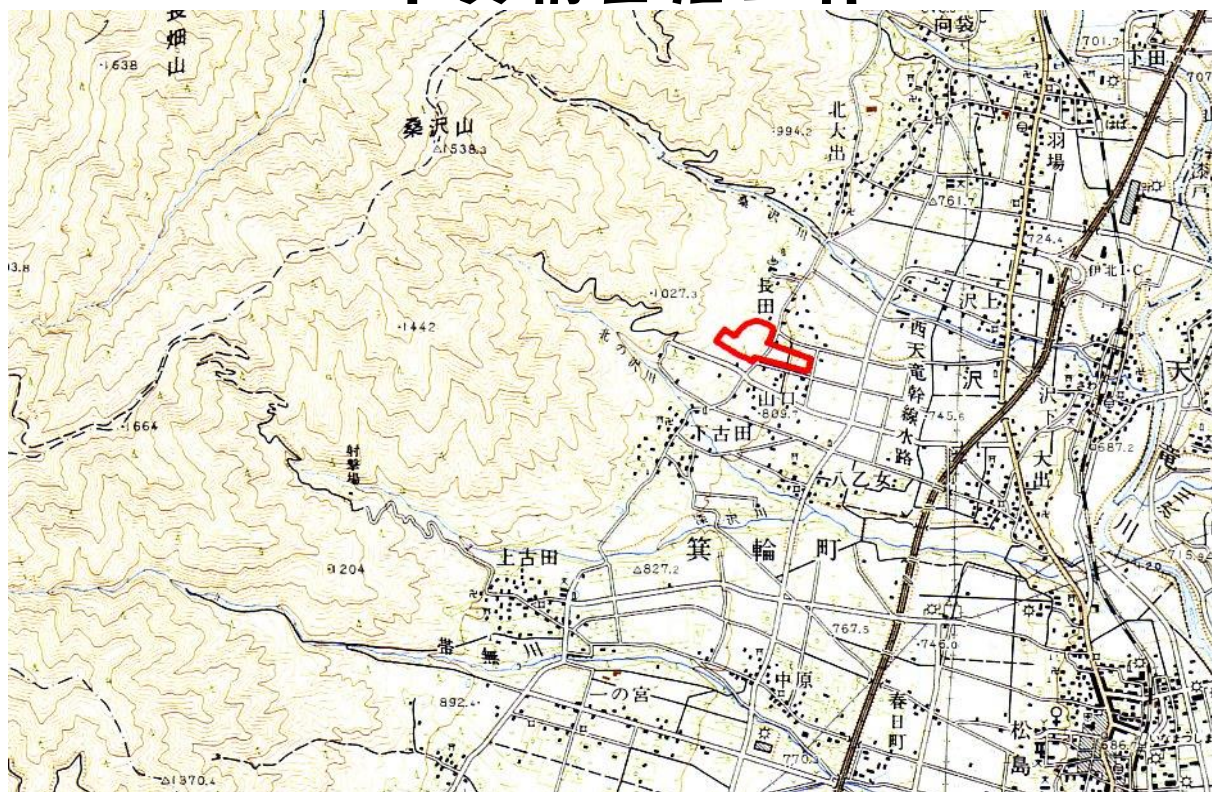
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
82.54		8.84		44.89		24.15	4.66
100%		11%		54%		29%	6%



中箕輪苗畑山林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(伊那)を使用したものである。

<沿革>

中箕輪苗畑山林は、箕輪町の西方、みのわ温泉 長田の湯近くにあり、標高800mから850mに位置しています。昭和29年7月1日創設。

<現況・特徴>

かつては県有林の山行苗木を生産していた苗畑ですが、現在では林木育種事業の一環で採種園として利用されています。需要の多いカラマツの他、ヒノキ、アカマツも育成管理しています。中でもマツノサイセンチュウに抵抗性を持つアカマツとねじれの少ないカラマツは県内で唯一の採種源となっています。また、東側のエリアにはH29年にカラマツ特定母樹を導入し、採種に向けて手入れをしています。

県道の西側の山林部分は、保健休養林として箕輪町に使用許可しています。



抵抗性アカマツの採種木



カラマツ特定母樹の植栽状況

＜森林整備の方向＞

採種園では、断幹及び剪定を定期的に行います。また、特にカラマツは種子を安定的に供給するため、当面の間は高齢化した採種木も有効に活用しつつ、新たに導入した特定母樹の保育を行います。

山林部分では、育成天然林施業を行い、保健休養機能の増進を図ります。

＜樹種別資源構成＞

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
7.87	0.26	2.64		0.20			4.77
100%	3%	34%		3%			61%

